

『そこで会えます』(マタイの福音書 28章 1-10節) 2021.4.4.

<はじめに> 今日はいースター、主イエスのよみがえりの日です。十字架で死なれたイエスがこの日の明け方によみがえられました。死人がよみがえるとはなかなか受け入れ難いことですが、こゝまで明言されているのは、よみがえったイエスに会った人たちがいるからです。

I よみがえったイエスに会う

①エルサレムで

墓を訪ねた女たち(1-10)、女たちから知らせを受けたペテロとヨハネ(ヨハネ 20:1-10)、園に佇むマグダラのマリア(ヨハネ 20:11-18)、エマオへの道を下る2弟子(ルカ 24:13-35)、部屋に閉じこもる弟子たちには2度にわたって(ヨハネ 20:19-25)イエスは現れました。

②ガリラヤで

イエスは弟子たちにガリラヤでの再会を告げられ(7,10)、弟子たちも向かいます。ガリラヤ湖畔での突然の再会(ヨハネ 21:1-14)、ペテロへの問い掛け(ヨハネ 21:15-23)、山での再会と大宣教命令(28:16-20)を通して、彼らはイエスが復活されたことを確信します。

③もしイエスが…

よみがえったイエスは、群衆や十字架につけた宗教指導者やローマ兵にはその姿を現されていません。現れたなら彼らは信じたでしょうか。イエスのご自分の復活をまず弟子や親しい者たちに示し、その信仰を建て上げようとされています。

II 前から言っておられたとおり(6)

①十字架前の予告(26:31-32)

イエスは、幾度も十字架での死と復活を予告され、更にガリラヤに向かわれることまでも明言されています。その時の弟子たちには、イエスの言葉は到底理解できませんでした。自分たちのことで精一杯だったからです。

②ゼカリヤの預言(ゼカリヤ 13:7-9)

弟子たちが十字架の前につまづき、散り散りになることも、イエスはゼカリヤの預言を引用して予告されました。引用された預言には続きがあります。そこには試練の後に彼らが主を呼び求め、「これはわたしの民」「主は私の神」と信仰と交わりの回復が記されています。

③ガリラヤへ行きます(26:32)

復活のイエスは、このゼカリヤの預言を意識されて、「ガリラヤに行く」と語られました。主を見失い、途方に暮れる弟子たちをもう一度御許に呼び寄せ、彼らの信仰を立て直すためです。

III 弟子たちに伝えなさい(7,10)

①イエスが現れて

エルサレムで復活の主が現れたのは、いずれも突然・一方的な主からのアプローチです。「数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示すためでした(使徒 1:3)。しかし、それでもなお疑う者や信じない者もいました。

②ガリラヤで会えます

十字架前の予告(26:32)、御使い(7)と主のことば(10)で、ガリラヤでの再会が約束されています。それを聞いた弟子たちが信じるなら、ガリラヤに急行するはずで、見て信じることも幸いです。イエスのことばを信じることはそれ以上に幸いです(ヨハネ 20:29)。

③あなたがたより先に

主は私たちよりも先を進まれています。前もって語られることが理解できなくても、心に留めて手放さないで置きたいものです。後になってそれが思い起こされ、主がなさろうとすることが見えて来る時が来ます。そして、主のことばが真実であるとの確信に至ります。

<おわりに> 復活の主は、弟子たちにみことばを信じる信仰を確かにしようとしています。今も主の姿は見えなくとも、みことばを信じる者は主とお会いし、主の御声を聞くことができます。その経験がよみがえられた主が今も生きておられる証しです。(H.M.)